



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イエメン：LNG 事業の見通し

(4月13日付イエメン国営通信)

13日付イエメン国営通信は、イエメンの液化天然ガス（LNG）の輸出先である韓国及び米国におけるガス需要の減少により、イエメンはLNGの代替市場を探す必要があるかも知れないとのエコノミスト誌インテリジェンス・ユニットの見通しを掲載している。概要は以下の通り。

1. イエメン LNG 輸出の早急な開始は、経済的に行き詰っているイエメン政府にとって生命線であるが、LNG 事業で見込まれる利潤は世界的な、とりわけ韓国と米国の天然ガス需要の落下によって危ぶまれている。
2. 韓国ガス公社（Korea Gas Corporation）は、イエメン LNG 事業に6%出資しており、今後20年間にわたり年産30%を輸入する契約を行っている。その他韓国SK及びヒュンダイ社がそれぞれ9.55%、6.88%の出資を行っている。
3. しかし、韓国の天然ガス需要は過去数ヶ月のうち急激に減少しており、報道によれば、韓国はアジア及び中東における天然ガスの主要サプライヤーに対して、供給量を減らすよう要請した。このような事態の進展は、イエメン LNG 事業へも影響を与え得る。
4. イエメン LNG のその他の生産分のほとんどは、来年に開始予定である第2トラックでの生産となり、これは米国にスポット価格で輸出されることになっているが、米国がどれだけ購買力を有しているか、見通しは不透明である。後退する米経済において需要は停滞し、米国のガス地下貯蔵量（2月末付で508億m<sup>3</sup>）は過去5年間の平均に比べて約14%増で推移している。
5. しかしイエメン LNG にとって幸運な事に、米国のガス貯蓄のだぶつきによって米国でのガス生産が抑制され、2009年末までには米国ガス市場はバランスを取り戻すと期待される。
6. NYMEX（New York Mercantile Exchange）で取引される天然ガス先物（ヘンリーハブ）価格は、2008年には100万Btu当たり8.6米ドルであったのに対し、2010年には100万Btu当たり5米ドル程度にしか回復されないと予測されており、イエメン LNG 関係者やイエメン政府が望んでいる LNG 事業からの利潤を下回る事になる。その結果、短期的には供給過多（特にカタールからのそれ）となっているガス市場においては困難であるとしても、イエメン LNG の買い付け元はEUやインド等の代替的な市場を模索するかもしれない。